



「南海トラフ地震」について、 過去から現在そして未来へつなぐ 商業高校生の取組

和歌山県立和歌山商業高等学校
教諭 川口 敦志



1 はじめに

本校の位置する和歌山市は、内閣府・中央防災会議において公表された南海トラフ地震の想定地域にあります。また、本校周辺にはろう学校やこども園等があり、災害時要援護者となり得る様々な方が生活しています。商業高校である本校の学びの中には、情報の受発信や動画及びWebページの制作等に関する知識・技術を習得できる機会が多くあります。加えて、卒業生の多くが地域経済やコミュニティの担い手として活躍していくこともあり、学んだ知識・技術を地域貢献のために応用できる人材の育成をめざし取組を進めています。

2 特色

この取組は、生徒達が学んだことなどを防災・減災情報としてインターネットで発信するほか、年度末には、その活動記録をWebページにまとめることにより、防災・減災活動の共有と継続を図っています。

3 取組の流れ

(1) 初回の授業では、前年度からの引継資料や学習成果を記録したWebページを確認するとともに、地域課題である南海トラフ地震に関する動画を視聴し、防災・減災の重要性について認識を深めます。また、商業教育を受ける中で学んできた知識・技術を応用する中で、地域住民の一員という意識を高め、その学びの成果を地域に還元

していこうという目標設定を行いました。

(2) 電子商取引等の授業で学ぶWebページの作成方法や広報活動等の理論、及び各種ソフトウェアを用いた実習等を通して学んだ知識・技術を応用しながら発信する、防災・減災に係る啓発のための情報の重要性について再認識しました。

(3) 防災士を講師に招き、被災時に高校生に期待することや南海トラフ地震への備え等についてご教示いただきました。避難所運営ゲーム(HUG)を通して、災害時要援護者となる障がいをもつ方や外国人の方の視点にも立ちながら、その重要なポイントとなる内容を教えていただきました。また、避難行動訓練防災教育教材EVAGにも活用し、被災時の避難行動における注意点や避難所に入ってから課題等についても、協議を通してまとめていきました。なお、こうした取組は、当県の県立学校の生徒に貸与されているタブレットPCを活用し、コミュニケーションアプリTeamsによって生徒間や教員間で情報を共有しています。

4 班別の具体的な取組

(1) スツール(椅子)内蔵型のかまど「かまどすつーる」の製作と設置

和歌山県立和歌山工業高等学校の協力を得て、南海トラフ地震に係る防災・減災を共通テーマにした、商業と工業の学科連携授業を実施しました。地域貢献を視野に入れ、商業科目の「電子商取引」履修生と工業科目の



和歌山工業高校との交流で製作した内蔵型のかまど
「かまどすつーる」

「課題研究」で学ぶ生徒が協働し、ツール（椅子）内蔵型のかまど「かまどすつーる」を製作し、普及を図ることをめざしました。

まず初めに、和歌山商業高校に隣接する砂山今福防災公園の管理を和歌山市から委託されているNPO法人の職員より、防災設備等について両校の生徒が講習を受けました。

その後、工業高校生が、既製品を研究し、自らの知識・技術を生かしながらオリジナルの製品を作り、その特徴を商業高校生にプレゼンテーションしました。

説明を受けた商業高校生は、当該製品の普及促進の企画案を作り、公共の場所への設置をめざしました。

（2）和歌山県立和歌山ろう学校高等部とオリジナルHUGを制作

地域のオリジナルHUGの制作を最終目標に、まずは両校を舞台にしたオリジナルHUGの完成をめざしました。防災士等による講演を一緒に聴き、既存のHUGで学んだことやオリジナルHUGを制作する上での課題等を対面やTeams上で共有しました。その後、各校で避難に使用できる施設について、同校の事務室等の協力も得ながら取材・調査を進めました。また、両校が立つ砂山地区について、その世帯人口や年齢層等を和歌山市役所の統計等から調べ、避難者カードへ



和歌山ろう学校とのオリジナルHUG作り事前交流

の反映をめざしました。

（3）防災情報とともに発信した地域の魅力

地域での町歩きを通して、その街並みを調べる中で防災設備の位置や危険箇所の把握を行いました。また、地域の自治会長への取材等も通して、その地形や歴史、魅力等についても学びました。こうした取組から得られた情報をマップにまとめ、添付したQRコードから更に詳細な情報を提供できるよう工夫をし完成させました。



自治会へのインタビュー



制作Webページ



制作動画